

新除草・調節剤

ダクロン

CMPP乳剤

中外製薬株式会社

対象作物：トマト・ニンジン。

性状・作用特性：本剤は、有効成分（3-クロルー4-メチルフェニル）-2-メチルペンタンアミド 25%を含む乳剤である。

本剤は、接触型除草剤で、発生初期の一年生雑草に効果があり、また雑草の発生を長期間抑える土壌処理剤の効果もある。なお、トマト・ニンジンに対しては、選択性がある。殺草効果はやや遅効性で、普通は処理後2～4日から効果があらわれる。

毒性については、ラット急性経口毒性LD₅₀が4,500 mg/kg以上でほとんど無害である。

魚毒は、コイトLM48 hr 6.3 ppmで、通常的使用方法では魚貝類に対し影響が少ない。しかし、一時に広範囲に使用するときは注意すること。

使用方法：トマト対象の場合、移植栽培では、本畑移植後の雑草発生初期、直播栽培では、本葉8～10枚（草丈20 cm位）以後（オ1花房～オ2花房が見え始める頃）の雑草発生初期。

ニンジン対象には、ニンジンの発芽前および本葉3枚（草丈7～8 cm位）以後の雑草発生初期に、いずれも10アール当り、製品量500～1000 ccを100ℓ前後の水に溶かし、畦間または全面に散布する。

使用上の注意としては、本剤の除草効果が最も高い時は雑草の発芽後より草丈5 cm位までで、この時期をねらって処理すること。トマトの8

葉期およびニンジンの3葉期以前の処理は、生育抑制をみることがあるのでさける。他薬剤の散布前後に全面散布する場合、すなわちスミチオンは1週間、EPN・トリアジン・ダイセンの場合は3日前後の散布および混用は薬害がでるのでさける。処理時の温度が高いと、効果も高くなるが薬害も多くなる傾向があるので、夏期高温時は基準使用量の範囲内で薬量を減らす方が望ましい。

NCS水溶剤

東京有機化学工業株式会社

三洋貿易株式会社

対象作物：ネギ・タマネギ苗床対象。

性状・作用特性：本剤は、有効成分N-メチルジチオカーバミン酸アンモニウム 50.0%を含有する水溶液である。本剤は、土壌中に注入されると急速に分解して、メチルイソチオシアネイトガスを発生し、雑草の種子を殺す土壌処理剤である。本剤は、元来、土壌中の病原菌や土壌害虫の殺滅用として開発されたものである。

雑草種子に対しては、非選択的に作用し長期にわたって雑草の発生を抑える。

使用方法：耕起しよく砕土した後、均平に整地して播種床を作る。本剤を30～40倍にうすめたものを、1アール当りに90ℓをジョロで全面に均一に灌注散布する。散布後直ちにビニールやポリエチレンフィルムで地表面を、秋まきでは7～10日間位、春まきでは10日間位被覆する。覆いをとった後、地表面を軽く2～

新除草・調節剤

3 cm 耕起し、ガス抜きをして、さらに春まきでは7～10日間位、秋播きでは10日間位そのまま放置した後、は種する。

使用上の注意としては、は種床は耕起後、砕土をていねいにして、土塊を細かくすること。ガス抜き時の耕起は、地表面をごく浅く行なう。5 cm 以上 耕起すると、除草効果が劣る。は種後の覆土は、必ず処理した土を用いて、雑草の種子のはいつている土をかけないようにすること。処理前に土壌がひどく乾燥している時は、適度に灌水し、土壌をある程度湿らせてから散布すること。春まきでは種後ビニール・トンネルをかぶせる場合は、とくにガス抜きを充分にしてから行なうように注意する。原液が皮ふについたら、よく水で洗い落すこと。

トレファノサイド

トリフルラリン乳剤

シオノギ製薬株式会社

対象作物：ニンジン・カンラン・ダイコン・トマト・トウガラシ・チューリップ・タマネギ（本畑）・ハクサイ・（ナタネ・ダイズ・ラッカセイ）。

性状・作用特性：本剤は、有効成分 α, α, α -トリフルオロ-2,6-ジニトロ-N, N-ジプロピル-P-トリルイジン 4.4.5% を含む乳剤である。非ホルモン性の接触害作用のほとんどない吸収移行型の土壌処理型除草剤である。選択性はイネ科に害作用が大きく、広葉には小さい傾向がある。土壌中の移動性は、土壌粒子へ吸着する力が強いので小さい。したがって、砂土でも安全に使用できる。雨の多い時や乾燥した時

でも安定した効果があり、気象条件による影響が少ない。

本剤の特質は、散布直後の土壌混和によって、少ない薬量で、すぐれた除草効果をあげ、しかも効力を持続させうることである。残効性が長いので、後作物にコムギ・トウモロコシ・陸稲・イタリアンライグラスなどはさける。特に秋冬作に土壌混和処理した時の次の春夏作には注意が必要である。

人畜毒性については、急性経口毒性マウスで $LD_{50}=1.810\text{ mg/Kg}$ （成分）で、TLM50はコイで 4.2 ppm/48 hr で、魚貝類に対しては、一時に広範囲に使用すれば、多少の影響があるので、原液や残液を、川や池に流さないよう注意する。

使用方法：表面土壌処理の場合は、ニンジン・カンラン・ダイコン・タマネギ本畑で播種後～発芽前、または定植活直後に10アール当り150～300cc を水100ℓにとかして散布する。（カンラン・タマネギは株間処理）。土壌混和の場合は、は種前7日～は種直前・または定植7日前～定植直前に150～250cc. を処理する。この場合は散布直後、土のかたまりを砕き、できるだけ早く（15分以内が望ましい）ていねいに5～10cmの深さに混和する。

使用上の注意としては、できるだけ低圧で均一に散布する。砕土は、できるだけ細かくする。土壌が乾燥している時は、灌水して湿らせて使用する。作物にかからぬようにする。カンランの場合、気温が低いとき、生育が遅れることがある。直射日光をさけて保管し、火気に近づけないこと。